

## カトリック山手教会月報

## やまて



編集・発行 カトリック山手教会 広報委員会 〒231-8652 横浜市中区山手町44番地  
☎ (045) 641-0735 <http://catholicyamate.org/>

第648号 2024年2月11日

## 絵本の中に見る福音②

主任司祭 ミカエル鈴木 真

昨年2月号で、わたしが「子どもとともに、ささげるミサ」などで絵本を使う理由、そして、絵本の中に置かれている福音的要素を感じることを書かせていただきました。絵本を使う時は、会衆に絵本を向けてページをめくっていくため、長年、その絵本を丸覚えして臨むようにしていました。そのため、「子どものミサ」の前は何度も練習して、普通のミサ以上に緊張していました。今でも「横浜みこころ幼稚園」などで園児に絵本を読み聞かせする時は、なるべくそのようにしていますが、歳をとるにつれて、だんだん面倒くさくなり、今では絵本を上からのぞき込んで読んだりするようになってしまいました。

そのような中、最近、ミサの中では機械を使うことで、だいぶ楽になりました。カメラで読み込んだ映像をプロジェクターでスクリーンに映し出すことで、子どもたちにもよく見えるし、わたしもその場で絵本を読めばいい。横浜雙葉小学校などでは、講堂でミサをする場合、先生がパソコンで絵本を読み取ってくださり、わたしは、ただ、その場で絵本を読めばいいという状況になりました。なんと！これは、わたしの司祭人生の中でも画期的なことでした。おかげで、今までページや文字が多かったりして、使うのを敬遠していた絵本も、無事使えるようになりました。

数年前に本屋で見つけた絵本で、これはいい！と買ったはいけれど、読んでみたら字が多すぎて、これは使えない…と眠っていた物を、昨年12月の「子どものミサ」で、ようやく使うことができました。『ねずみにとどいたクリスマス』（ヨゼフ・ウィルコン<絵>/ルドルフ・オットー・ヴィーマー<文>/川中子義勝<訳>/いのちのことば社、フォレストブックス）。ストーリー自体は単純で、救い主誕生の知らせを野原で羊飼いたちが天使たちから聞いた時、ねずみもそれを聞いていた…というところから始まります。ねずみは「すてきな知らせだわ！」と他の動物たち、自分よりも大きくて強い動物たちに知らせに行きます。その時、ねずみは必ず「あなたより大きくて強い王様が生まれたのよ」と言います。自分よりも大きくて強い王様…と次々に動物たちは訪ねて行くことにします。最後には、強く大きなものを先頭に、クマ、オオカミ、キツネ、犬、そして、ねずみ…と並んで進んでいくと、すでにあらゆるところから人間や動物たちがやって来ていることに驚きます。そして、たどり着いたのは…貧しく小さな馬小屋でした。「俺より大きくて強い王様はどこだ！」と人々をかき分けてクマが前に出ると、小さな子どもが自分の方に手を差し伸べて、光っている。それを見たクマは恥ずかしくなって、その子の前で小さく身をかがめます。

最後は、こんな文章で締めくくられます。「『ふしぎだわ』とねずみはかんがえる。『さいしょにこのすばらしい知らせをきいたのがわたしだったなん

て。(中略) こんなことってきいたことある?』小さい者を通してはたらかれる神さまのわざ、弱い者の中に示される神さまの強さと大きさ。これぞ福音! と思った作品です。まあクリスマス物だから、内容が福音的なのは当たり前かもしれませんが。すばらしい絵本を届けてくれた作者や出版社に感謝です。

これからもまた、絵本の中に置かれている「福音」を、子どもたちと、そして、皆さんと分かち合えれば、と思います。

## 鈴木真主任司祭主日ミサ説教

2023年11月19日 年間第33主日 A年  
マタイ福音書 25章14-30節



『タラントンのたとえ』…前にも言いましたが、このタラントンというのはとんでもない貨幣単位です。『聖書と典礼』の注書きにあるように、当時の約20年分の日当に当たる…分かりやすいように無理やり今の円に換算するとすれば、1デナリオン=約1万円で1タラントンが6千万円、5タラントンならなんと3億円!それは土に埋めたくもなるよな…という感じですよ。

金と商売に例えられているので、それが何を指すかは難しいところですが…ポイントは、主人が「お前は少しのものに忠実であったから」と言うところです。「少しのもの」?つまりは、これは神さまのわざそのもの、とも言えるかも知れません。神さまは、わたしたちを通して、わたしたちを使って限りなく大きなはたらきをなさる。そこに自分を「どうぞ使ってください」と差し出せるかどうか、ということなのかも知れません。だからこそ「主人と一緒に喜んでくれ」と言われる。つまり、神さまのはたらきが広がるのは、神ご自身の喜びでもある、とい

うとなのでしょうか。

では「土に埋める」とはどういうことでしょうか。ひとつ気付くのは、神さまは人を通してはたらかれる、ということです。だとすれば、わたしたちが自分のことばかり考えて、人とかかわろうとしないこと…それが「土に埋める」ということになってしまうのかも知れません。

聖母マリア、そして、マザー・テレサのように「どうぞ、わたしをお使ってください」と自分を差し出すことができるように、両者の取り次ぎを願って祈りたい、と思います。